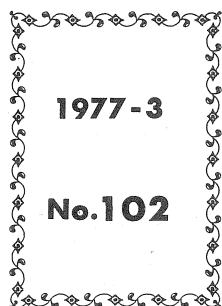


も く じ



表紙 能装束

説明は36ページ参照

題字デザイン・桑山弥三郎

創造と享受と	4
アメリカの博物館に思う	5
文化財をまもる技術者たち	6
人間広場	7
——レクリングハウゼンの印象——	
文化財保護行政の草分け(二)	8
地方の文化活動	
参加する文化活動	12
——第1回大分県高等学校中央文化祭——	
出版物による日本紹介に携って	14
——出版物輸出の経過と現状——	
転機を迎えた国際文化情勢	16
——第19回ユネスコ総会に出席して——	
米国新著作権法の成立	17
文化庁ニュース	
「新漢字表試案」を報告—第12期国語審議会	18
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の	
選択について	21
文化法人、及び国立劇場に対する	
相続財産の贈与、非課税へ	21
(財)文楽協会、(財)札幌交響楽団、	
「試験研究法人」になる	22
昭和52年度予算閣議決定 文化庁は17%アップの	
278億6,473万2千円	22
高校演劇祭に3千万円	22
新法人紹介	22
国立国際美術館(仮称)早期開館の要望書	22
「文化庁」の表札、書きかえ	22
我が町、我が村の文化行政	
角館町の伝統的建造物群保存地区 秋田県角館町	23
国立劇場ニュース	24
博物館・美術館ニュース	25
海外文化ニュース	
文化庁予算は全体の0.56% フランスの文化政策	26
文化庁の国際交流関係予算は7億1,344万6千円	26
アメリカ合衆国における神道美術展終わる	27
文化財保護法教室(9)	
建造物の保存と管理	28
文化庁月報昭和51年度総目次	30
文化庁日誌	34
出版ニュース	36

〈地方の文化活動〉

参加する文化活動

第一回大分県高等学校中央文化祭

大分県高文連とは

高等學校文化連盟(高文連)は全国で、わずか四県にしか存在しないので、まずこの紹介からせねばならない。大分県高文連の結成は二十六年前の昭和二十六年にさかのぼる。記録によると、この運動は大分県高教組の文化運動から生み出され、組合と校長協会との双方から信頼されて育てられたもので、これまでほとんどこれといった

力だといわれる。大分県高校教育界にはこの「高文連バカ」が数十人いる。この「人間文化財」なしには高文連を論ずることはできない。各都では一人の部長と六、七人の常任委員が協議しつつ独立して運営にあたっている。彼らの大半は、文化部の顧問をしていたその道にかけてはきわめて有能な教師たちである。

トラブルを知らない。現在、加盟校六十七校（私学数校が未加盟である）。會員は約五万人。年間会費は一人当たり百二十円、総予算六百万円。この連盟の眞の主人公は文化部生徒であり、秀れた文化活動の顧問教師を指導者として、文化課外活動（部）の全果の連合組織となっている。本部は会長（木本 本一）―県立大分女子高校長）、理事長（木本 理事からなり、その傘下に十一の専門部が所属している。演劇、音楽、美術、文芸、新聞、弁論、科学、家庭、社会、職業、放送の各部である。高文連役員は大へんである。学校の業務は人並にやらず、勤務時間外を無報酬で、時には死にものぐるいで文化事業の経営にあたっている。だから各部ともだいたい年間に研究大会を二回、コンクールを一回催している。研究大会は全県下の部員が一同に会して、合宿の形で師弟同行の猛勉強が行われる。参加者数は部によって違うが、多い部では三百人になるところもある。大分県高文連年表を見ると、過去二十五回の全九州弁論大会で優勝十五回を重ねた弁論部（三十三年以降、各種全国大会優勝は五回）。全九州の作品を集めて「九州高校美術秀作展」が行われたのは戦後二回だが、その二回とも主催者は大分県高文連美術部である。高校新聞では全国コンクールで最優秀賞に輝くところ、このごろとみに成果をあげているのが職業部。その中農業クラブ発表や英文タイプで全国一

位になるのは毎年のこと。科学部が物理部門で文部大臣賞に輝いたのは四十九年のこと。そして昨年は歴史の浅い放送部が日本一の高校アナウンサーを出した。（こんな記録を書いていくときりがない、さらに知りたい方は、連絡して下さい）



「荒城の月」大合唱
大分県高等学校中央文化祭のフィナーレ

らが、人口、県民所得、工業出荷額で最近まで全国比百分の一の弱小県があげている業績であることを注意してほしい。

高校県体の文化版

第一回 県高校 中央文化祭

この文化祭の構想が公式の場で討議されたのは、昨年三月の理事会がはじめてであった。高文連の全部門を網羅した集中力を持ち、回を重ねて高めていく継続力をもった全県的な文化祭をもとう、「高校校体の文化版」がなければ片手落ちだ、高文連各部の成果を県民

にもひろく理解してもらおう、というのが最初の着想だった。これが五月の評議員会（本連盟最高決議機関）までに固まっていた。

高体連が高校県体をおもに大分市で開くので、高文連は大会を周辺部に持つていこうということで、第一回は竹田市が選ばれた。

竹田市は「大分県文化のふるさと」という性格をもっている。田能村竹田や「荒城の月」の滝廉太郎で知られる美しい町だ。断崖と紅葉に埋まるこの町の随所に郷土の作家、朝倉文夫の影刻が建っている。また昨年は全国まれに見る壮麗な文化会館が建設され、会場としては申し分ない。加うるに市長はじめ竹田市民は文化行事に物心両面から大きな支援を寄せる土地柄でもあった。この町で各々が厳選した高校大分県一位の作品を披露することになった。部によつては、一位をきめない方針の部もあった。例えば社会部の場合生徒の研究発表に一位二位の順位をつけることはとてもできないので、社会部顧問総会は地元竹田高校社会部を推薦した。美術部の場合も教育の配慮から伝統的に「賞」は出さず、作品の何割かを「推奨」とするにとどめる表彰方式をもっているたので、この中央文化祭への参加のしかたは「大分県高校美術書道学校代表作品展」という形をとった。

文化のお祭りなんだから「とにかく楽しくやろうよ」ということで、各部門にとって無理のない出場方式が選ば

れた。「文化」にとって画一的統制は禁物であると考えられたからだ。

こうして出場（出品）生徒約三〇〇名、観覧生徒・市民約二、〇〇〇名の大文化祭となった。

ふるさと讃歌

十一月二十八日、開会式。佐久間竹田市長、木本高文連会長、大津地元実行委員長（竹田高校校長）によるテープカットに始まり、この日は展示、市民歴史教室、農水産物即売会が行われた。展示は美術書道展と並んで竹田高校社会部（民俗部）による「大野川上流開発と埋蔵文化財展」、長嶺竹田商業高校による「竹田の石橋展」など、なかでも庄巻は、私立府女子高校が数十人で二年かかって共同制作した「刺繍屏風三点」で、これは昨夏、日本の手工芸を代表して米國建国二百周年のロスアンゼルス展覧会に出された逸品であった。家庭科中心の私学がこうしたところで万丈の気を吐いたわけであつた。観る者を驚嘆させたのはゆかいであつた。

十一月三十日には舞台行事が集中的に行われた。連唄歌大合唱で幕をあげた一つ一つの出し物について述べている紙幅はともないの、左に略プログラムを掲げておく。

- ① 連盟歌大合唱 上野丘高校・緑丘高校・竹田高校・竹田商業高校

- ③吹奏楽 別府商業高校吹奏楽部
「アメリカン・ドラム」
「エルザの大聖堂への行列」
「ああ青春」
- ④文芸随想 「蛙」
作 臼杵高校 大皇祐一郎
朗読 大分女子高 吉松澄子
- ⑤弁論 「許さぬい過ち」
⑥高校 豊田恵利
英語弁論 城南高校 前谷夏江
- ⑥職業部研究発表
玖珠農業 手島孝一 他三名
- ⑦科学部研究発表 「グラドニ図
形の成因振動数について」
中津北高 井上孝之ほか三名
- ⑧音楽発表
合唱 大分上野丘高校音楽部
ピアノ独奏 雄城台高 小野
フルート 緑丘高校 中山
- ⑨演劇 竹田商業高校演劇部
同部作「就職戦線異常なし」
プログラム(午後の部)
- ⑩演劇 ⑪社会部研究発表 ⑫職
部(商業)研究発表 ⑬家庭部研
発表 ⑭弁論 ⑮音楽発表 ⑯全
大合唱 「荒城の月」

地方の文化団体はかく中央のすぐれた文化の「呼び屋」になりがちである。今度の「大分県高校中央文化祭」を契機として高文連はそうした「呼び屋」的色彩を脱し、自ら参加し、創造し、発表するという性格に変わった。全一日のステージは、全て生徒に任

せられ、教師で舞台に立ったのは、二
分間の会長あいさつと合唱指揮者の音
楽教師のム、進行はNHK杯全国高校
放送コンクールのアナウンス部門で日
本一となった小出真由美（大分女子高
がとりしきり、この膨大なプログラム
をリハーサルぬきで、ほとんど時間
の誤差なく運営した。また観客となつた
竹田市内三校の生徒は、次々と展開す
る唄一内の舞台を生を引きつられて
しまい、引率教師が観覧態度につい
ても注意するの必要がなかった。

舞台とは別に、昼食時前後に隣接する体育館で「出場生徒交流会」が開かれた。参加生徒約五十名、主催者は竹田高校、竹田商業高校の生徒会。両校生徒会長らの歓迎のあいさつのと、竹田の町の歴史、風土の説明があり、昼食をとりながら出場生徒たちが自分の部の紹介、学校生活の報告、郷土の自慢話などに花を咲かせ、最後に「魂をゆすぶる健全な文化を創造していこう」という歴史的な「竹田アツピール」を発して会を閉じた。

順調にすすんだ舞台は十六時に最後の「荒城の月」大合唱となった。舞台も客席も一体となつてこの祭りの雰囲気は最高潮に達した。大合唱隊の陣どる舞台の背景にはポツカリと大きな満月が浮かびあがり、今日一日の満足を感じずるかのようであつた。県内各地から参加した出演者たちは自分の努力が報いられた誇らしい瞬間であり、また竹田の生徒たちの中には「竹田に生まれてよかった」と言っている者もある。

るように郷土愛を胸底深く植えつけたファイナールであった。

さて、この舞台照明を無償提供してくれたユニーク・アーティスト社の社長は、かつて高文連で演劇を学ぶ高校生であった。さらに大分放送テレビ番組の中で「高校生と文化活動」と題して、この行事のようが紹介されたが、この放映の企画を担当したテレビ局の杉田部長も高文連のOBであった。

またこの行事は県芸術祭の参加行事として行われたのであるが、その中で特別功労賞となったこと、さらに文化庁柳川次長さんがわざわざ来県され、ご視察くださったことは私どもにとっても光栄の至りであった。

最後にこの文を読まれた全国の高校関係者にお願いしたい。全国どの県にも高文連を作ってみたい。高校が「灰スクール」といわれてもう久しい。もう何かわ変わってよいはずだ。冷たい灰をまいて枯木に花を咲かせる文化の「花咲かいいさん」がどの高校にも何人かいてよいはず。NHKも今年の大河ドラマには「花神」を選んだのだが(大分県高文連理事長、大分女子高校教諭 五島辰夫)

*
*
*
*

編集後記

○予算の季節が終わった。文化庁の予算は二七八億円で、五十一年度に比べ四〇億円の増、一七％の伸びである。国の予算が二八兆円であるから、約〇・一％。○フランス文化庁のほうは、海外文化ニュースに記したように〇・五六％、早くフランス並みにならないものである。○ユネスコ総会が昨年終わり、日本は二か年にわたり、五八億円を提出することになった（国連へは年八一億円）。ユネスコ本部に勤務する日本人は二十一人。非常に少ない。

ジュネーブにある著作権の総本山のWIPO（世界的所有権機関）にも年八六〇万円の分担金を払っているが、日本の著作権界はまだ人を送っていない。○本号は、特別に増ページを行ったが、それでも次号にいくつかの記事をまわさざるを得なかった。（大）

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
TEL(〇三)二六八一二四（代表）

「文化庁月報」 三月号

（通巻第一〇二号）

昭和52年3月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号
発行所 株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所 〒102 東京都新宿区西五軒町52番地

電話 (〇三) 二六八一二四（代表）

振替口座 東京九一六一番

印刷所 (株) 行政学会印刷所

定価・一五〇円(送料二九円)
年間購読料 一、八〇〇円